



Cisco UCS Central インストレーション/アップグレードガイド リリース 1.1

初版：2013年07月15日

最終更新：2013年07月24日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2013 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに v

対象読者 v

表記法 v

Cisco UCS の関連ドキュメント vii

マニュアルに関するフィードバック viii

概要 1

Cisco UCS Central リリース 1.1 のインストール 1

Cisco UCS Central リリース 1.1 へのアップグレード 2

インストールの前提条件 3

システム要件 3

サポートされるプラットフォーム 5

サポートされる Web ブラウザ 6

Cisco UCS Central をインストールするための重要な前提条件 6

Cisco UCS Central リリース 1.1 のインストール 9

インストールの概要 9

Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手 10

スタンドアロン モードでの Cisco UCS Central インストール 10

VMware への Cisco UCS Central OVA ファイルのインストール 11

VMware への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール 12

Microsoft Hyper-V への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール 14

クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール 15

ノード A に Cisco UCS Central をインストール 16

ノード B への Cisco UCS Central のインストール 17

Hyper-V への共有ストレージの追加 19

VMware への共有ストレージの追加 19

Hyper-V の共有ストレージのセットアップ 20

| | |
|---|-----------|
| VMware の共有ストレージのセットアップ | 20 |
| データベース サーバ情報 | 20 |
| Cisco UCS Central VM の復元 | 21 |
| ログインおよび設定 | 23 |
| ログインおよび設定の概要 | 23 |
| Cisco UCS Central GUI へのログインとログアウト | 23 |
| Cisco UCS Central CLI へのログインとログアウト | 24 |
| admin パスワードのリセット | 25 |
| パスワードのガイドライン | 25 |
| 共有秘密のリセット | 26 |
| Cisco UCS Central リリース 1.1 へのアップグレード | 27 |
| Cisco UCS Central リリース 1.0 から 1.1 へのアップグレード | 27 |
| スタンドアロンモードでの Cisco UCS Central のアップグレード | 28 |
| スタンドアロンモードからクラスタモードへ Cisco UCS Central を変更 | 29 |
| Cisco UCS Manager の使用 | 31 |
| Cisco UCS Manager および Cisco UCS Central | 31 |
| Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録 | 33 |
| Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録 | 33 |
| Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除 | 34 |
| Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除 | 35 |



はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- [対象読者](#), [v ページ](#)
- [表記法](#), [v ページ](#)
- [Cisco UCS の関連ドキュメント](#), [vii ページ](#)
- [マニュアルに関するフィードバック](#), [viii ページ](#)

対象読者

このガイドは、次の 1 つ以上に責任と専門知識を持つデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

表記法

| テキストの種類 | 用途 |
|---------|--|
| GUI 要素 | タブのタイトル、領域名、フィールドラベルなどの GUI 要素は、[] で囲んで表記しています。 ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルなどのメインタイトルも、[] で囲んで表記しています。 |

| テキストの種類 | 用途 |
|------------|---|
| マニュアル タイトル | マニュアルのタイトルは、このフォント（例： <i>this font</i> ）で示しています。 |
| TUI 要素 | テキストベースのユーザ インターフェイスでシステムが表示するテキストは、このフォント（例： <i>this font</i> ）で示しています。 |
| システム出力 | システムが表示するターミナルセッションおよび情報は、このフォント（例： <i>this font</i> ）で示しています。 |
| CLI コマンド | CLI コマンドのキーワードは、このフォント（例： this font ）で示しています。 CLI コマンドの変数は、このフォント（例： <i>this font</i> ）で示しています。 |
| [] | 角カッコの中の要素は、省略可能です。 |
| {x y z} | 必ずいずれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。 |
| [x y z] | どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。 |
| string | 引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。 |
| <> | パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。 |
| [] | システムプロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。 |
| !、# | コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。 |



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント

「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。

**注意**

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

**ワンポイントアドバイス**

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

**警告****安全上の重要事項**

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。警告の各国語版については、各警告文の末尾に提示されている番号をもとに、この機器に付属している各国語で記述された安全上の警告を参照してください。

これらの注意事項を保存しておいてください。

Cisco UCS の関連ドキュメント

ドキュメントロードマップ

すべての B シリーズ マニュアルの一覧については、<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/b-series-doc> で入手できる『Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。

C シリーズのすべてのマニュアルの完全な一覧については、次の URL にある『『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』』を参照してください。<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>。

その他のドキュメントリソース

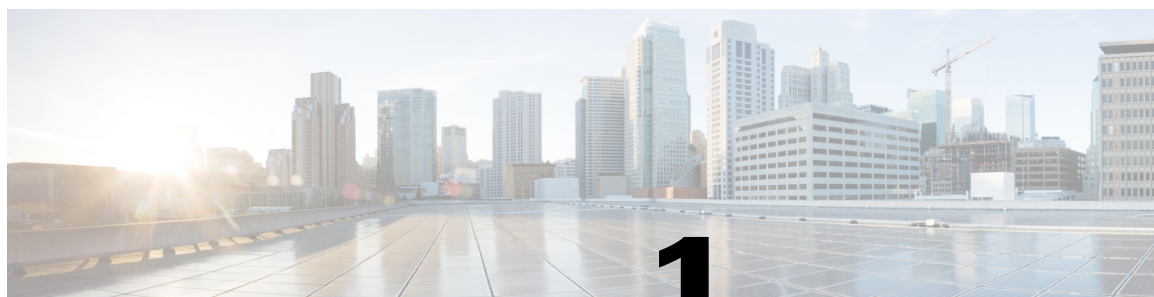
B シリーズおよび C シリーズのすべてのドキュメントを含む ISO ファイルは、URL : <http://www.cisco.com/cisco/software/type.html?mdfid=283853163&flowid=25821> から入手できます。このページで、[Unified Computing System (UCS) Documentation Roadmap Bundle] をクリックします。

ISO ファイルは、各メジャー ドキュメントリリース後にアップデートされます。

ドキュメントのアップデート通知を受け取るには、[Twitter](#) で [Cisco UCS Docs](#) をフォローしてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバックフォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。



第 1 章

概要

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS Central リリース 1.1 のインストール, 1 ページ](#)
- [Cisco UCS Central リリース 1.1 へのアップグレード, 2 ページ](#)

Cisco UCS Central リリース 1.1 のインストール

Cisco UCS Central リリース 1.1 をインストールするには、次の 2 つのオプションのどちらかを使用します。

- **スタンドアロンモード**：スタンドアロンインストールはリリース 1.0 と同じ方法で仮想マシンに Cisco UCS Central をインストールできます。
- **クラスタモード**：クラスタインストールは、管理環境をさらに安定させます。クラスタインストールを使用して、フェールオーバーおよびハイアベイラビリティを有効にするにプライマリおよびセカンダリ ノードに Cisco UCS Central をインストールします。

ハイアベイラビリティのためにクラスタモードで Cisco UCS Central をインストールすると、2 台の仮想マシンに Cisco UCS Central をインストールします。両方の仮想マシンに必要な要件は次のとおりです。

- 同じサブネット上にある
- 同じ仮想 IP アドレスを共有する
- 同じ共有ストレージを共有する

これらのいずれか、プライマリ ノードで、他方はスタンバイ ノードです。プライマリ ノードがダウンした場合、スタンバイ ノードは最小限の中断で引き継ぎます。クォーラム情報は登録された Cisco UCS ドメイン に保存されます。

Cisco UCS Central リリース 1.1 へのアップグレード

新しい管理機能を利用するために、Cisco UCS Central をリリース 1.0 から 1.1 にアップグレードできます。スタンドアロンモードまたはクラスタモードにアップグレードできます。Cisco UCS Central 機能は、スタンドアロンモードとクラスタモードで同じです。



重要

Cisco UCS Central リリース 1.0 から 1.1 へアップグレードする前に、Cisco UCS Manager をリリース 2.1(2)にアップグレードする必要があります。Cisco UCS Central をアップグレードする前に Cisco UCS Manager をアップグレードしなければ、すべての登録済み Cisco UCS ドメインはアップグレード後からCisco UCS Centralアップデートの受信が停止されます。

サポートされるアップグレードオプション、要件、手順については、[Cisco UCS Central リリース 1.0 から 1.1 へのアップグレード](#)、(27 ページ) を参照してください。



第 2 章

インストールの前提条件

この章の内容は、次のとおりです。

- [システム要件, 3 ページ](#)
- [サポートされるプラットフォーム, 5 ページ](#)
- [サポートされる Web ブラウザ, 6 ページ](#)
- [Cisco UCS Central をインストールするための重要な前提条件, 6 ページ](#)

システム要件

スタンドアロンインストール

スタンドアロンモードで Cisco UCS Central をインストールする場合は、次のシステム要件を満たしていることを確認します。

サーバタイプ

Cisco UCS Manager に管理されないまたは Cisco UCS ドメインに統合されないスタンドアロンラックサーバで実行される VMware または Hyper-V hypervisor 上に、Cisco UCS Central を配置することを推奨します。サーバは、可能であれば高速のストレージアレイからプロビジョニングされる、高速なデータストアである必要があります。

必須の TCP ポート

ファームウェア管理およびバックアップ機能を正しく動作させるために、次の TCP ポートを Cisco UCS Central と登録されている Cisco UCS ドメイン間で開く必要があります。

- LOCKD_TCPPOINT=32803
- MOUNTD_PORT=892
- RQUOTAD_PORT=875
- STATD_PORT=32805

- NFS_PORT="nfs"(2049)
- RPC_PORT="sunrpc"(111)

サーバ要件

次の表に、Cisco UCS Central の最小要件を示します。

表 1: プラットフォームによる **Cisco UCS Central** のインストールのシステム要件

| 要件 | ESX の最小要件 | Hyper-V の最小要件 |
|------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ディスク 1 | 40 GB | 40 GB |
| ディスク 2 | 40 GB | 40 GB |
| RAM | 12 GB | 12 GB |
| vCPU コア | 4 コア | 4 コア |
| ディスク読み取り速度 | 75 Mbps 以上 125 MBps 以上が推奨される速度です。 | 75 Mbps 以上 125 MBps 以上が推奨される速度です。 |



(注)

- Cisco UCS Central のパフォーマンスは、vCPU、RAM またはディスク速度の最小要件を満たしていないサーバで導入する場合は保証されません。
- VM の設定を変更する前に、電源をオフにしてください。

サーバのディスク読み込み速度が Cisco UCS Central の展開中に最低限必要な速度を下回る場合、インストーラが警告メッセージを表示しますが、展開を完了できます。ただし、ディスク読み込み速度が動作時に最低限必要な速度を下回る場合、ディスク読み込み速度の遅さに応じて、次の表に示す障害が Cisco UCS Central で発生します。

| サーバのディスク読み込み速度 | 障害レベル |
|----------------|---------|
| 75 Mbps 以下 | 致命的な障害 |
| 75 ~ 100 Mbps | 重大な障害 |
| 100 ~ 125 Mbps | マイナーな障害 |
| 125 Mbps 以上 | 該当なし |

サポートされるデータベース サーバ

次の統計情報収集用データベース サーバがサポートされています。

- Oracle Database 11g Enterprise Edition Release 11.2.0.1.0 64 ビット製品以降。
- PostgreSQL Server 9.1.8 64 ビット以降

統計情報データが外部データベースサーバに保存されている場合、データベースサーバのディスク容量要件として次の参照データを考慮してください。

- 20 個の Cisco UCS ドメインを登録すると、1 年間統計データを保存するために必要な最小限のストレージ容量は 400 GB です。
- 100 個の Cisco UCS ドメインを登録すると、1 年間統計データを保存するために必要な最小限のストレージ容量は 2 TB です。

クライアントシステム

クライアントシステムに必要な最小メモリは、4 GB です。ただし、40 以上登録された Cisco UCS ドメインがある場合、クライアントシステム上のメモリが少なくとも 8 GB あることを推奨します。

クラスタのインストール

ハイアベイラビリティを有効にし、クラスタ モードで Cisco UCS Central をインストールする場合、スタンドアロンインストール用に指定されたすべての要件および次の共有ストレージを満たす必要があります。

- ESX の最小要件 : 40 GB
- Hyper-V の最小要件 : 40 GB

サポートされるプラットフォーム

次の表に、Cisco UCS Central をインストール可能なプラットフォームのサポートについて示します。

| ハイパーバイザ | サポートされるバージョン |
|-------------------|---|
| Microsoft Hyper-V | Windows 2008 R2 SP1 Windows 2012 |
| VMware ESX | <ul style="list-style-type: none"> • ESX 4.1U2 • ESX 5.0 • ESX 5.1 |

サポートされる Web ブラウザ

Cisco UCS Central GUI でサポートされる Web ブラウザは、Cisco UCS Central GUI を実行するコンピュータのオペレーティングシステムによって異なります。

| オペレーティングシステム (Operating System) | サポートされる Web ブラウザ |
|---------------------------------|---|
| Microsoft Windows | <ul style="list-style-type: none"> • Internet Explorer 9 以降 • Firefox 15 以降 • Chrome 22 以降 • Adobe Flash Player 11.7 以降 |
| Mac | <ul style="list-style-type: none"> • Firefox 15 以降 • Chrome 22 以降 • Safari 6 以降 • Adobe Flash Player 11.7 以降 |
| Linux RHEL | <ul style="list-style-type: none"> • Firefox 15 以降 • Chrome 22 以降 • Adobe Flash Player 11.7 以降 |

Cisco UCS Central をインストールするための重要な前提条件

Cisco UCS Central をインストールする前に、次の情報が必要です。

- Cisco UCS Central のスタティック IPv4 アドレス
- IPv4 ネットマスク
- デフォルト ゲートウェイ
- Cisco UCS Central 管理者アカウントに割り当てるパスワード。新しいパスワードを作成します。
- 仮想マシン (VM) のホスト名

- DNS サーバを使用する場合の DNS サーバの IPv4 アドレス
- DNS ドメインを使用する場合の Cisco UCS Central を追加する DNS ドメイン名
- 共有秘密 これは、Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメイン を登録するときに必要なパスワードです。



第 3 章

Cisco UCS Central リリース 1.1 のインストール

この章の内容は、次のとおりです。

- [インストールの概要, 9 ページ](#)
- [Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手, 10 ページ](#)
- [スタンドアロンモードでの Cisco UCS Central インストール, 10 ページ](#)
- [クラスタモードでの Cisco UCS Central のインストール, 15 ページ](#)
- [Hyper-V への共有ストレージの追加, 19 ページ](#)
- [VMware への共有ストレージの追加, 19 ページ](#)
- [Hyper-V の共有ストレージのセットアップ, 20 ページ](#)
- [VMware の共有ストレージのセットアップ, 20 ページ](#)
- [データベース サーバ情報, 20 ページ](#)
- [Cisco UCS Central VM の復元, 21 ページ](#)

インストールの概要

Cisco UCS Central は、次のいずれかを使用してインストールできます。

- OVA ファイル
- ISO イメージ

Cisco UCS Central リリース 1.1 では、スタンドアロンまたはクラスタ設定でインストールするオプションがあります。インストールする前に、Cisco.com からソフトウェアを取得してローカルドライブに保存する必要があります。

Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手

はじめる前に

正常に Cisco UCS Central ソフトウェアをダウンロードする準備ができたなら、Cisco.com のユーザ名とパスワードが正しいことを確認します。

手順

-
- ステップ 1 Web ブラウザで、[Cisco.com](https://www.cisco.com) を参照します。
 - ステップ 2 [Support] で [All Downloads] をクリックします。
 - ステップ 3 中央のペインで、[Unified Computing and Servers] をクリックします。
 - ステップ 4 入力を求められたら、Cisco.com のユーザ名およびパスワードを入力して、ログインします。
 - ステップ 5 右側のペインで、ダウンロードする形式の Cisco UCS Central ソフトウェアのリンクをクリックします。
次の形式で Cisco UCS Central ソフトウェアをダウンロードできます。
 - たとえば `ucs-central.1.1.1.1a.ova` などの名前の OVA ファイル
 - たとえば `ucs-central.1.1.1.1a.iso` などの名前の ISO ファイルまた、次の URL から管理者パスワードをリセットする ISO イメージをダウンロードできます。
 - ステップ 6 ソフトウェアのダウンロードページで、リリースノートの最新バージョンをダウンロードするリンクをクリックします。
 - ステップ 7 ダウンロードする Cisco UCS Central ソフトウェア リリースのリンクをクリックします。
 - ステップ 8 次のいずれかのボタンをクリックして、表示される指示に従います。
 - [Download Now] : Cisco UCS Central ソフトウェアをすぐにダウンロードできます。
 - [Add to Cart] : 後でダウンロードする Cisco UCS Central ソフトウェアをカートに追加します。
 - ステップ 9 プロンプトに従って、ソフトウェアのダウンロードを実行します。
 - ステップ 10 Cisco UCS Central VM を配置する前にリリース ノートをお読みください。
-

スタンドアロンモードでの Cisco UCS Central インストール

Cisco UCS Central は、スタンドアロン モードで OVA ファイルまたは ISO イメージのいずれかでインストールできます。

VMware への Cisco UCS Central OVA ファイルのインストール



- (注) Cisco UCS Central VM の初回起動時に 1 回に限り、インストール後の設定を実行します。ログインする前にインストールを完了してください。

手順

- ステップ 1 ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA ファイルを保存します。
- ステップ 2 VMware Virtual Center コンソールから、[File] > [Deploy OVF Template] を選択します。
- ステップ 3 Cisco UCS Central VM をホストする ESX を選択して OVA ファイルを展開します。VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。
- ステップ 4 まだ OVA ファイルのインポート作業を実行していない場合、Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。
- ステップ 5 Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。
- ステップ 6 Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。
 - a) Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore] プロンプトで、**setup** と入力し、Enter キーを押します。
 - b) Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address : プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
この Cisco UCS Central VM 用に予約された固定 IP アドレスを入力する必要があります。Cisco UCS Central は、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) をサポートしていません。
 - c) Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask : プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、Enter キーを押します。
 - d) Enter the Default Gateway : プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルトゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
 - e) Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no) プロンプトで、**no** を選択し、Enter キーを押します。
yes を選択すると、クラスタモードで Cisco UCS Central をセットアップします。クラスタモードでの Cisco UCS Central のセットアップの詳細については、[クラスタモードでの Cisco UCS Central のインストール](#)、(15 ページ) を参照してください。
 - f) Enter the UCS Central VM host name : プロンプトで、Cisco UCS Central VM に使用するホスト名を入力し、Enter キーを押します。
 - g) (任意) Enter the DNS Server IPv4 Address : プロンプトで、Cisco UCS Central が使用する DNS サーバの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
Cisco UCS Central で DNS サーバを使用しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。

- h) 共有ストレージをセットアップする場合は、Shared Storage to be used (yes/no) プロンプトで、yes を入力し、Enter を押します。
- i) (任意) Enter the Default Domain Name : プロンプトで、Cisco UCS Central を追加するドメインを入力し、Enter キーを押します。
ドメインに Cisco UCS Central を追加しない場合は、空白のままにして、Enter キーを押します。
Cisco UCS Central は、localdomain というデフォルトドメインを使用します。
- j) Enter the admin Password : プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードを入力し、Enter キーを押します。
- k) Confirm admin Password : プロンプトで、admin アカウントで使用するパスワードをもう一度入力し、Enter キーを押します。
- l) Enter the Shared Secret : プロンプトで、1つまたは複数の Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために使用する共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- m) Confirm Shared Secret : プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- n) Do you want Statistics Collection (yes/no) プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
今は統計情報収集を有効にしない場合は、no と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。yes と入力した場合は、データベースサーバの情報を指定するように求められます。[データベースサーバ情報](#)、[\(20 ページ\)](#) を参照してください。
- o) Proceed with this configuration. Please confirm[yes/no] プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、no と入力し、Enter キーを押します。その後、質問に再度回答するように求められます。

設定を続けることを確認した後で、ネットワーク インターフェイスは設定を再初期化し、Cisco UCS Central は IP アドレスでアクセスできるようになります。

VMware への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール

手順

ステップ 1 次の設定で VM を作成します。

| 設定 | 推奨値 |
|-------------|----------------------------------|
| コンフィギュレーション | カスタム設定 |
| 名前 | Cisco UCS Central 導入に関する情報がわかる名前 |

| 設定 | 推奨値 |
|-------------------|--|
| データ ストア | スタンドアロン インストールでの使用可能なディスク領域は 80 GB 以上、クラスタ環境でのインストールではさらに 40 GB の共有ストレージ |
| 仮想マシン タイプ | 7 以降 |
| ゲスト オペレーティング システム | Linux RHEL 5.0 (64 ビット) などのサポートされるオペレーティング システム |
| vCPU 数 | 4 |
| メモリ | 12GB 以上 |
| 仮想アダプタ | VM ネットワークを使用する 1 台の仮想アダプタ |
| SCSI コントローラ | LSI Logic Parallel |
| 仮想ディスク | 使用可能なディスク領域 40GB 以上 また、ステップ 2 で 2 番目の仮想ディスクを作成する必要があります。 |
| 詳細オプション | 仮想デバイス ノードの SCSI |

- ステップ 2** [Edit Settings] で、スタンドアロン インストール用に 40 GB 以上、リモートディスク クラスタ インストールではさらに 40 GB の使用可能なディスク領域を持つ新しいハードディスクを作成します。
- ステップ 3** [Options] メニューから、[Force BIOS Setup] をオンにしてブート オプションを変更します。
- ステップ 4** CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。
- ステップ 5** VM を起動し、コンソールに接続します。
- ステップ 6** ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Install Cisco UCS Central] を選択します。
Cisco UCS Central インストーラが、VM に必要な RAM とディスク容量 (40 GB のディスク 2 個) があることを確認します。VM が要件を満たせば、ディスクをフォーマットしてファイルを転送し、Cisco UCS Central をインストールします。
- ステップ 7** 仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。
- ステップ 8** Cisco UCS Central VM を再起動します。

Microsoft Hyper-V への Cisco UCS Central ISO ファイルのインストール

手順

ステップ 1 次の設定で VM を作成します。

| 設定 | 推奨値 |
|-------------|---|
| 名前 | Cisco UCS Central 導入に関する情報がわかる名前 |
| RAM | 12GB 以上 |
| ネットワーク アダプタ | デフォルト (Default) |
| vCPU 数 | 4 |
| 仮想ドライブ | 使用可能なディスク領域 40GB 以上 またステップ 3 で、IDE コントローラにおいて 2 番めの仮想ディスクを作成する必要があります。 |

ステップ 2 VM の設定で、次の手順を実行します。

- a) デフォルトのネットワーク アダプタを削除します。
- b) 従来型のネットワーク アダプタを作成します。
- c) [Apply] をクリックします。

ステップ 3 最初の仮想ドライブと同じコントローラで、使用可能なディスク領域が 40 GB 以上ある VM の 2 番めの仮想ドライブを作成します。

ステップ 4 CD/DVD ドライブに Cisco UCS Central ISO イメージをマウントします。

ステップ 5 VM を起動し、コンソールに接続します。

ステップ 6 ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Install Cisco UCS Central] を選択します。
Cisco UCS Central インストーラが、VM に必要な RAM とディスク容量 (40 GB のディスク 2 個) があることを確認します。VM が要件を満たせば、ディスクをフォーマットしてファイルを転送し、Cisco UCS Central をインストールします。

ステップ 7 仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。

ステップ 8 Cisco UCS Central VM を再起動します。

クラスタ モードでの Cisco UCS Central のインストール

可用性の高い構成で、Cisco UCS Central を 2 台の仮想マシンにインストールできます。クラスタモードでは、一方の VM がプライマリ ノードとして、他方がセカンダリ ノードとして機能します。このクラスタ設定では、VM で障害が発生した場合に冗長性およびハイ アベイラビリティを提供します。

クラスタ設定により、仮想マシンはデータベースおよびイメージリポジトリに LUN のディスクの共有ストレージを使用します。その結果、共有ストレージにファームウェアイメージをダウンロードします。レポートに使用される統計情報も、共有ストレージに収集および保存されます。



重要

クラスタ設定で Cisco UCS Central をインストールするときは、次のガイドラインに注意してください。

- クラスタ内の 2 つの VM は、同じサーバ上には存在しません。両方の VM が同じサーバ上にある場合は、1 つのホストの障害によってクラスタがダウンします。
- VM は両方とも、同じバージョンの ESX または HyperV がインストールされている必要があります。
- VM は両方とも、適切な共有ストレージを設定する別のホスト上に存在する必要があります。
- VM は、両方とも同じサブネット上にある必要があります。

クラスタ モードの共有ストレージの設定

Cisco UCS Central がクラスタモードで十分に動作するために、業界のベストプラクティスに従って共有ストレージを設定および接続してください。次のガイドラインに注意してください。

- 共有ストレージへすばやくアクセスするために、高速の SAN 接続を設定します。
- 共有 LUN を設定するためにパフォーマンスの優れた RAID タイプを選択します。
- ストレージに十分な領域、適切なページサイズおよびウォーターマーク設定があり、書き込みキャッシュが有効であることを確認します。たとえば、EMC ストレージアレイがある場合、次のキャッシュ設定が必要です。
 - ページサイズ : 8 KB
 - 低水準値 : 60%
 - 高水準値 : 80%

ノード A に Cisco UCS Central をインストール

はじめる前に



(注) Cisco UCS Central VM では、初回起動時に 1 回限りのインストール プロセスを実行します。ログインする前にインストールを完了してください。

次の情報について確認してください。

- ホスト名、IP アドレス、デフォルト ゲートウェイ、DNS サーバと DNS ドメイン名といったネットワーク データ
- 新しいクラスタをセット アップするかどうか
- 管理者のユーザ名とパスワード
- クラスタ ノード間および Cisco UCS Manager との通信のための共有秘密
- ピア Cisco UCS Central ノードの IP アドレス。
- 仮想 IP アドレス

手順

- ステップ 1** ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA または ISO ファイルを保存します。
- ステップ 2** ハイパーバイザの必要に応じて、サポートされるハイパーバイザに Cisco UCS Central OVA ファイルを開くまたはインポートします。
VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。
- ステップ 3** 共有ストレージを追加します。 [VMware への共有ストレージの追加, \(19 ページ\)](#) または [Hyper-V への共有ストレージの追加, \(19 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 4** Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。
- ステップ 5** Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。
- ステップ 6** Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。
- a) Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore] プロンプトで **setup** と入力し、Enter キーを押します。
 - b) Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
 - c) Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。
 - d) Enter the VM IPv4 Default Gateway プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、Enter キーを押します。

- e) Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no) プロンプトで、yes と入力して Enter キーを押します。
- f) Is this VM part of a new cluster(select 'no' to add to a new cluster) (yes/no) プロンプトで、yes と入力して Enter キーを押します。
- g) Enter the Shared Storage Device from the above list (enter serial no.) プロンプトで、共有ストレージデバイスのシリアル番号を入力し、Enter キーを押します。
- h) Enter the UCS Central VM Hostname プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てられたホスト名を入力し、Enter キーを押します。
- i) Enter the DNS Server IPv4 Address プロンプトで、Cisco UCS Central で使用される DNS サーバの IPv4 アドレスを入力し、Enter キーを押します。
- j) Enter the Default Domain Name プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルトドメイン名を入力し、Enter キーを押します。
- k) Enforce Strong Password (yes/no) プロンプトで、no と入力し、Enter キーを押します。
- l) Enter the admin Password プロンプトで、管理者パスワードを入力し、Enter キーを押します。
- m) Confirm the admin Password プロンプトで、もう一度 admin パスワードを入力し、Enter キーを押します。
- n) Enter the Shared Secret プロンプトで、共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- o) Confirm Shared Secret プロンプトで、もう一度共有秘密を入力し、Enter キーを押します。
- p) Enter the Peer UCS Central Node IPv4 Address プロンプトで、ピア UCS central ノードの IPv4 アドレスを入力し、Enter キーを押します。
- q) Enter the Virtual IPv4 Address プロンプトで、Cisco UCS Central に使用される仮想 IPv4 アドレスを入力し、Enter キーを押します。
- r) Do you want Statistics Collection (yes/no) プロンプトで、yes と入力し、Enter キーを押します。
今は統計情報収集を有効にしない場合は、no と入力してインストールを続行します。Cisco UCS Central CLI を使用して統計情報収集をいつでもイネーブルにできます。yes と入力した場合は、データベースサーバの情報を指定するように求められます。[データベースサーバ情報、\(20 ページ\)](#) を参照してください。
- s) Proceed with this configuration? Please confirm (yes/no) プロンプトで、yes と入力して Enter キーを押して、システムのインストールを開始します。

ノード B への Cisco UCS Central のインストール

はじめる前に

次の情報について確認してください。

- UCS Central IPv4 アドレス、IPv4 ネットマスクおよび IPv4 デフォルト ゲートウェイ

- IP アドレス、ピア ノードの管理者ユーザ名およびパスワード

手順

-
- ステップ 1** ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA または ISO ファイルを保存します。
- ステップ 2** ハイパーバイザの必要に応じて、サポートされるハイパーバイザに Cisco UCS Central OVA ファイルを開くまたはインポートします。
VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。
- ステップ 3** 共有ストレージをセットアップします。 [VMware の共有ストレージのセットアップ, \(20 ページ\)](#) または [Hyper-V の共有ストレージのセットアップ, \(20 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 4** Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。
- ステップ 5** Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。
- ステップ 6** Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に答えてください。
- Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore] プロンプトで **setup** と入力し、**Enter** キーを押します。
 - Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、**Enter** キーを押します。
 - Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、**Enter** キーを押します。
 - Enter the VM IPv4 Default Gateway プロンプトで、Cisco UCS Central が使用するデフォルト ゲートウェイを入力し、**Enter** キーを押します。
 - Is this VM part of a cluster(select 'no' for standalone) (yes/no) プロンプトで、**yes** と入力して **Enter** キーを押します。
 - Is this VM part of a new cluster(select 'no' to add to a new cluster) (yes/no) プロンプトで、**no** を入力し、**Enter** キーを押します。
 - Enter the Peer UCS Central Node IPv4 Address プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、**Enter** キーを押します。
 - Enter the admin Username on Peer Node プロンプトで、ピア ノードの **admin** ユーザ名を入力し、**Enter** キーを押します。
 - Enter the admin Password on Peer Node プロンプトで、ピア ノードの **admin** パスワードを入力し、**Enter** キーを押します。
 - Proceed with this configuration? Please confirm (yes/no) プロンプトで、**yes** と入力して **Enter** キーを押して、システムの再起動を開始します。
-

Hyper-V への共有ストレージの追加

手順

-
- ステップ 1** ストレージアレイで 40 GB 以上の LUN を作成し、ノード A をインストールした Hyper-V ホストに割り当てます。
ディスクはオフラインモードである必要があります。
- ステップ 2** 新しい SCSI コントローラを使用する「物理ハードディスク」として VM にディスクを追加します。
- ステップ 3** Powershell コマンドウィンドウで、Set-ExecutionPolicy unrestricted コマンドを実行します。
- ステップ 4** SCSI-3 PGR を機能させるには、SCSI フィルタリングをディセーブル化する必要があります。このディスクの SCSI フィルタリングをディセーブル化するには、パラメータとして仮想マシンの名前を使用する次のスクリプトを保存および実行します。
- ```
$HyperVGuest = $args[0]
$VMManagementService = gwmi Msvm_VirtualSystemManagementService -namespace
"root\virtualization"
foreach ($Vm in gwmi Msvm_ComputerSystem -namespace "root\virtualization" -Filter
"elementName='$HyperVGuest'")
{
$SettingData = gwmi -Namespace "root\virtualization" -Query "Associators of {$Vm} Where
ResultClass=Msvm_VirtualSystemGlobalSettingData AssocClass=Msvm_ElementSettingData"
$SettingData.AllowFullSCSICommandSet = $true
$VMManagementService.ModifyVirtualSystem($Vm,$SettingData.PSBase.GetText(1)) | out-null
C:\> .\DisableSCSIFiltering.ps1 UCSC-Node-1
```
- 

## VMware への共有ストレージの追加

### 手順

- 
- ステップ 1** ストレージアレイで 40 GB 以上の LUN を作成し、ノード A をインストールした ESXi ホストに割り当てます。
- ステップ 2** 物理互換モードで Raw Device Mapping として VM にストレージアレイを追加します。すべてのデフォルトのオプションを選択してください。
- ステップ 3** Raw Device Mapping のハードディスクのパス選択ポリシーを固定 (VMware) に変更します。
-

## Hyper-V の共有ストレージのセットアップ

### 手順

- 
- ステップ 1** ノード A に追加した LUN を、ノード B をインストールした Hyper-V ホストにマップします。これで、両方の Hyper-V ホストが同じ LUN を表示できるようになります。
- ステップ 2** ノード B にこの LUN を追加します。 [Hyper-V への共有ストレージの追加](#)、(19 ページ) を参照してください。
- 

## VMware の共有ストレージのセットアップ

### 手順

- 
- ステップ 1** ノード A に追加した LUN を、ノード B をインストールした ESXi ホストにマップします。これで、両方の ESXi ホストが同じ LUN を表示できるようになります。
- ステップ 2** この ESXi ホストに、それぞれ別の vSphere クライアント セッションを開きます。vCenter Server を使用して VM を追加しないでください。追加した場合、LUN マッピングの競合を拒否します。
- ステップ 3** 物理互換モードで Raw Device Mapping として VM に追加します。すべてのデフォルトのオプションを選択してください。
- ステップ 4** Raw Device Mapping のパス選択ポリシーを Fixed VMware に変更します。
- 

## データベース サーバ情報

インストール中に、統計情報収集を有効にするかどうかの質問で [Yes] と回答した場合、Cisco UCS Central のインストール中にデータベースの詳細を指定する必要があります。

- D : デフォルトの内部 postgresql データベース。Cisco UCS Central に 5 つ以上 Cisco UCS ドメインがある場合、内部データベースは推奨されません。
- P : 外部 PostgreSQL データベース
- O : 外部 Oracle データベース

外部データベース オプションのいずれかに P または O を選択した場合、次のデータベース情報があることを確認してください。

- タイプ：Oracle と PostgreSQL のみがサポートされるオプションです。
- サーバ名または IP アドレス：Cisco UCS Central からアクセス可能である必要があります。
- ポート：データベース サーバにアクセスするためのカスタム DB のポートを設定できます。このポートを介して Cisco UCS Central のデータベース サーバへのアクセスをイネーブルにするために、ファイアウォール設定でこのポートをイネーブルにする必要があります。
  - Oracle のデフォルト ポートは 1521 です。
  - PostgreSQL のデフォルト ポートは 5432 です。
- 名前：統計データを格納するデータベースの名前。
- ユーザ名：データベースの作成、削除、読み取りおよび書き込み管理者特権を持つユーザ。
- パスワード：統計情報収集が DB パスワードの期限切れによって中断されないために、パスワードの有効期限をなしまたは 1 年に設定することを推奨します。

## Cisco UCS Central VM の復元

Cisco UCS Central リリース 1.0 から完全な状態のバックアップを復元する場合は、Cisco UCS Central リリース 1.1 の OVA ファイルを使用できません。



(注) この手順では、OVA ファイルを使用して復元するプロセスについて説明します。

### はじめる前に

Cisco UCS Central VM の設定を復元するには、Cisco UCS Central システムからバックアップ ファイルを取得する必要があります。Cisco UCS Central システムのバックアップ方法については、Cisco UCS Central のコンフィギュレーションガイドを参照してください。

クラスタ セットアップを復元する場合、復元を開始する前に共有ストレージをマッピングします。デフォルトでは、復元された VM はノード A に設定されます。これが新しいクラスタの場合、ノード B をインストールしてクラスタ モードに追加する必要があります。

### 手順

- ステップ 1** ハイパーバイザからアクセス可能なフォルダに Cisco UCS Central OVA ファイルを保存します。
- ステップ 2** ハイパーバイザの必要に応じて、サポートされるハイパーバイザに Cisco UCS Central OVA ファイルを開くまたはインポートします。  
VM の起動が完了するまで次の手順に進まないでください。

- ステップ 3** まだ OVA ファイルのインポート作業を実行していない場合、Cisco UCS Central VM の電源をオンにします。
- ステップ 4** Cisco UCS Central VM にコンソール ウィンドウを開きます。
- ステップ 5** Cisco UCS Central VM がインストール プロセスの最初の部分を完了したら、VM コンソール ウィンドウで次の質問に教えてください。
- a) Setup new configuration or restore full-state configuration from backup [setup/restore] プロンプトで、**restore** と入力し、**Enter** キーを押します。
  - b) Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Address : プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てる IP アドレスを入力し、**Enter** キーを押します。
  - c) Enter the UCS Central VM eth0 IPv4 Netmask : プロンプトで、Cisco UCS Central に割り当てるネットマスクを入力し、**Enter** キーを押します。
  - d) Enter the Default Gateway : プロンプトで、Cisco UCS Central で使用されるデフォルト ゲートウェイを入力し、**Enter** キーを押します。
  - e) Enter the File copy protocol[tftp/scp/ftp/sftp] : プロンプトで、Cisco UCS Central VM へバックアップ ファイルをコピーするために使用するサポート対象プロトコルを入力し、**Enter** キーを押します。
  - f) Enter the Backup server IPv4 Address : プロンプトで、バックアップ ファイルを保存するサーバに割り当てられる IP アドレスを入力し、**Enter** キーを押します。
  - g) Enter the Backup file path and name : プロンプトで、サーバ上のバックアップ ファイルの完全なファイルパスと名前を入力し、**Enter** キーを押します。
  - h) Enter the Username to be used for backup file transfer : プロンプトで、システムがリモート サーバにログインするために使用するユーザ名を入力し、**Enter** キーを押します。
  - i) (任意) Enter the Password to be used for backup file transfer : プロンプトで、リモート サーバのユーザ名およびパスワードを入力し、**Enter** キーを押します。
  - j) Proceed with this configuration. Please confirm[yes/no] プロンプトで、**yes** と入力し、**Enter** キーを押します。  
これらの手順の完了時にエラーが発生したと思われる場合、**no** と入力し、**Enter** キーを押します。その後、質問に再度回答するよう求められます。

設定を続けることを確認した後で、ネットワーク インターフェイスは設定を再初期化し、Cisco UCS Central は IP アドレスでアクセスできるようになります。

---



## 第 4 章

# ログインおよび設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- ログインおよび設定の概要, 23 ページ
- admin パスワードのリセット, 25 ページ
- パスワードのガイドライン, 25 ページ
- 共有秘密のリセット, 26 ページ

## ログインおよび設定の概要

Cisco UCS Central GUI および Cisco UCS Central CLI の両方を使用して、Cisco UCS Central にログインできます。両方のインターフェイスを使用すると、いくつかの例外を除いて、ほとんどすべての Cisco UCS Central 操作が実行できます。

Cisco UCS Central GUI にアクセスするには、HTTP および HTTPS の両方のプロトコルを使用できます。

一部の機能へのアクセスには、必要な権限を持っている必要があります。詳細については、[Cisco UCS Central コンフィギュレーションガイド](#)を参照してください。

## Cisco UCS Central GUI へのログインとログアウト

Cisco UCS Central GUI へログインするためのデフォルトの HTTP ポートおよび HTTPS Web リンクは次のとおりです。

- **HTTP** : Cisco UCS Central GUI のデフォルト HTTP Web リンクは `http://UCSCentral_IP` です。
- **HTTPS** : Cisco UCS Central GUI のデフォルト HTTP Web リンクは `http://UCSCentral_IP` です。



(注) `UCSCentral_IP`は、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスを表します。クラスタ設定の場合、この IP アドレスは仮想 IP アドレスで、特定のノードに対して 1 つではありません。

### 手順

- ステップ 1** Web ブラウザで、Cisco UCS Central GUI Web リンクを入力するか、ブラウザでブックマークを選択します。
- ステップ 2** 起動ページで、次の作業を行います。
- ユーザ名およびパスワードを入力します。
  - [Log In] をクリックします。

### 次の作業

#### ログアウト

Cisco UCS Central GUI でタスクを完了した後に、右上隅にある [Log Out] をクリックします。Cisco UCS Central GUI はただちにログアウトし、ブラウザの起動ページに戻ります。

## Cisco UCS Central CLI へのログインとログアウト

Cisco UCS Central CLI へのアクセスに SSH または Telnet クライアントを使用します。

Cisco UCS Central CLI へログインするためのデフォルトアドレスは `UCSCentral_IP` です。



(注) `UCSCentral_IP`は、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスを表します。クラスタ設定の場合、この IP アドレスは仮想 IP アドレスで、特定のノードに対して 1 つではありません。

### 手順

- ステップ 1** SSH クライアントから、Cisco UCS Central に割り当てられた IP アドレスに接続します。
- ステップ 2** `log in as:` プロンプトで Cisco UCS Central のユーザ名を入力し、Enter キーを押します。
- ステップ 3** `Password:` プロンプトで Cisco UCS Central のパスワードを入力し、Enter キーを押します。

### 次の作業

#### ログアウト



Cisco UCS Central CLI でタスクを完了した後に、`exit` と入力し、`Enter` キーを押します。ウィンドウを閉じるまで、`exit` と入力して `Enter` を押します。



(注) Cisco UCS Central CLI を終了すると、すべてのコミットされていないトランザクションのパッファをクリアします。

## admin パスワードのリセット

最初に Cisco UCS Central ソフトウェアのインストール時に、お使いのアカウント用に作成した管理者パスワードを紛失した場合は、管理者固有の作業を実行する前に、パスワードをリセットします。Cisco.com からソフトウェアを入手するときに、パスワードリセットイメージを取得していることを確認します。そうでない場合でも、パスワードリセットイメージをいつでも取得できます。パスワードリセットイメージ名の例：`ucs-central-passreset.1.1.1a.iso`



(注) クラスタ モードで Cisco UCS Central をインストールした場合、両方の VM を再起動し、それぞれの VM に個別に ISO をマウントし、両方の VM に同じパスワードをリセットします。

### 手順

- ステップ 1 必要に応じて VM を再起動し、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。
- ステップ 2 Password Reset ISO イメージを仮想 CD/DVD ドライブにマウントします。
- ステップ 3 [UCS Central Admin Password Reset] ページで、次の手順を実行します
  - a) [Admin Password] フィールドに、新しい admin パスワードを入力します。
  - b) [Confirm Admin Password] フィールドに、もう一度新しい admin パスワードを入力します。
  - c) [Next] をクリックします。
- ステップ 4 パスワード変更が完了した後、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。
- ステップ 5 Cisco UCS Central VM を再起動します。

## パスワードのガイドライン

シスコでは、各 Cisco UCS Central ユーザに強力なパスワードを設定することを推奨します。パスワードは Cisco UCS Central でローカルで認証されたユーザアカウントをそれぞれ作成する場合には必要です。admin、aaa、または domain-group-management 権限をもつユーザは、ユーザパスワードについてパスワード強度のチェックを実行するために Cisco UCS Central を設定できます。作成するパスワードは、一義的である必要があります。

パスワード強度チェックをイネーブルにすると、各ユーザが強力なパスワードを使用する必要があります。Cisco UCS Central では、次の要件を満たさないパスワードは拒否されます。

- 8 ~ 80 文字を含む。
- 次の少なくとも 3 種類を含む。
  - 大文字
  - 小文字
  - 番号 (Numbers)
  - 特殊文字
- 3 回以上連続して繰り返される文字を含めることはできません。例 : aaabbb111@@@
- ユーザ名またはユーザ名を逆にしたものと異なる。
- パスワードディクショナリ チェックに合格する。たとえば、パスワードには辞書に記載されている標準的な単語に基づいたものを指定することはできません。
- 次の記号を含まない。\$ (ドル記号)、? (疑問符)、= (等号)。
- ローカル ユーザおよび管理ユーザの場合は空白にしない。

## 共有秘密のリセット

### 手順

|        | コマンドまたはアクション                                 | 目的               |
|--------|----------------------------------------------|------------------|
| ステップ 1 | UCSC# <b>connect local-mgmt</b>              | ローカル管理モードを開始します。 |
| ステップ 2 | UCSC (local-mgmt) # <b>set shared-secret</b> | 新しい共有秘密を設定します。   |
| ステップ 3 | プロンプトに、新しい共有秘密を入力します。                        |                  |

次の例は、Cisco UCS Central の共有秘密をリセットする方法を示しています。

```
UCSC # connect local-mgmt
UCSC(local-mgmt) # set shared-secret
Enter Shared Secret: passW0rd2
```



## 第 5 章

# Cisco UCS Central リリース 1.1 へのアップグレード

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS Central リリース 1.0 から 1.1 へのアップグレード, 27 ページ](#)
- [スタンドアロンモードでの Cisco UCS Central のアップグレード, 28 ページ](#)
- [スタンドアロンモードからクラスタモードへ Cisco UCS Central を変更, 29 ページ](#)

## Cisco UCS Central リリース 1.0 から 1.1 へのアップグレード

Cisco UCS Central リリース 1.0 から 1.1 へ、スタンドアロンモードでアップグレードする必要があります。ただしアップグレードの実行後、スタンドアロンモードまたはクラスタモードのどちらかでシステムを設定できます。

Cisco UCS Central のシステム要件は、リリース 1.1 はリリース 1.0 の場合とは異なります。スタンドアロンモードで最初のアップグレードを実行し、クラスタモードでのセットアップに移行する前に、システムが Cisco UCS Central リリース 1.1 のシステム要件を満たしていることを確認します。 [システム要件, \(3 ページ\)](#) を参照してください。

**重要**

- Cisco UCS Central リリース 1.1 では、最低 12GB RAM および 40 GB のストレージが必要です。VM の RAM がこの要件を満たし、disk1 のサイズが 40 GB にアップグレードされていることを確認します。そうしない場合、アップグレードは失敗します。
- Cisco UCS Central リリース 1.0 からリリース 1.1 へのアップグレードは、ISO イメージでのアップグレードのみ使用できます。
- リリース 1.1 へアップグレード後に、Cisco UCS Central CLI の **local-mgmt** スコープからクラスタ モードをイネーブルにできます。
- アップグレード後、Cisco UCS Central の GUI にログインする前に、ブラウザ キャッシュをクリアしてください。

**注意**

Cisco UCS Central リリース 1.1 は、Cisco UCS Manager リリース 2.1(2) をサポートします。まず Cisco UCS Manager をリリース 2.1(2) にアップグレードしてから、Cisco UCS Central をアップグレードする必要があります。最初に Cisco UCS Manager をアップグレードしない場合、Cisco UCS Central はバージョンの不一致についてエラーを生成し、登録されたすべての Cisco UCS ドメインの Cisco UCS Central からのアップデートの受信を停止します。

## スタンドアロンモードでの Cisco UCS Central のアップグレード

現在動作しているの RHEL カーネルのバージョンおよびすべての Cisco UCS Central コンポーネントのアップグレード手順は、次の通りです。また、すべての Cisco UCS Central データを保持します。

### はじめる前に

Cisco UCS Central リリース 1.1 の ISO イメージを取得しておく必要があります。[Cisco.com からの Cisco UCS Central ソフトウェアの入手](#)、(10 ページ) を参照してください。この手順を実行する前に、Cisco UCS Central データをバックアップすることをお勧めします。

## 手順

- ステップ 1 必要に応じて VM を再起動し、CD-ROM から起動するブート オプションに変更します。
- ステップ 2 Cisco UCS Central ISO イメージを仮想 CD/DVD ドライブにマウントします。
- ステップ 3 ISO イメージの [Cisco UCS Central Installation] メニューから、[Upgrade Existing Cisco UCS Central] を選択します。
- ステップ 4 アップグレード完了後に、仮想 CD/DVD ドライブから Cisco UCS Central ISO イメージをアンマウントします。
- ステップ 5 Cisco UCS Central VM を再起動します。

# スタンドアロンモードからクラスタモードへ Cisco UCS Central を変更

## はじめる前に

この手順を実行する前に、Cisco UCS Central データをバックアップすることをお勧めします。

ISO イメージを使用して、Cisco UCS Central 1.0 から 1.1 へアップグレードします。 [スタンドアロンモードでの Cisco UCS Central のアップグレード](#)、(28 ページ) を参照してください。

## 手順

- ステップ 1 VM を停止します。
- ステップ 2 VM に共有ストレージを追加します。 [Hyper-V への共有ストレージの追加](#)、(19 ページ) または [VMware への共有ストレージの追加](#)、(19 ページ) を参照してください。
- ステップ 3 VM を起動し、VM が開始するまで待ちます。
- ステップ 4 ローカル管理に接続するためのローカル管理コマンドを実行します。
  - a) `central-lun connect local-mgmt#` と入力し、Enter キーを押します。
  - b) `UCS(local-mgmt)# enable cluster[Peer Node IP][Cluster Virtual IP]` コマンドを入力し、Enter キーを押します。

This command will enable cluster mode on this step. You cannot change it back to stand-alone.  
All system services and database will also be restarted.  
Are you sure you want to continue? (yes/no)
- ステップ 5 `enable cluster mode` プロンプトで、`yes` と入力し、Enter キーを押します。
- ステップ 6 共有ストレージデバイスの入力を求められた場合、共有ストレージデバイス番号を入力し、Enter キーを押します。

この VM は、デフォルトで Forced Primary にされるクラスタのノード A になります。

システムは、スタンドアロンモードからクラスタモードに変換して、ローカルディスクから共有ディスクへすべてのデータを転送します。

**ステップ 7** クラスタの状態をチェックします。ノードがプライマリに選択されたように表示されます。ノード B をクラスタに追加できます。ノード B への Cisco UCS Central のインストール、(17 ページ) を参照してください。

**注意** VM は Cisco UCS Central のセカンダリノードをインストールする前に再起動され、プライマリノードのデータベースおよびサービスは使用できません。 **cluster force primary** コマンドを実行して、プライマリノードの VM のデータベースとサービスをリカバリします。

---



## 第 6 章

# Cisco UCS Manager の使用

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS Manager および Cisco UCS Central, 31 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録, 33 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録, 33 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除, 34 ページ](#)
- [Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除, 35 ページ](#)

## Cisco UCS Manager および Cisco UCS Central

Cisco UCS Central は、1つまたは複数のデータセンターでの複数の Cisco UCS ドメインの集中管理機能を実現します。Cisco UCS Central は、増大する Cisco UCS 環境にスケーラブルな管理ソリューションを提供するために Cisco UCS Manager を使用します。Cisco UCS Central は、Cisco UCS ドメインを管理するための基本エンジンである Cisco UCS Manager を交換しません。その代わりに、Cisco UCS Manager で提供される機能に基づいて、各ドメインに変更を反映するために Cisco UCS Manager を操作します。

Cisco UCS Central では、API などの Cisco UCS Manager のすべてのローカル管理機能を、低減または変更しません。これにより、Cisco UCS Central を使用する以前と同じ方法で Cisco UCS Manager の使用を継続できます。また、既存のすべてのサードパーティ統合は変更せずに引き続き動作することができます。

### Cisco UCS ドメインの登録

Cisco UCS Central から Cisco UCS Manager を管理するには、Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録します。Cisco UCS ドメインは、ドメイングループの一部またはグループ化されていないドメインとして登録できます。ドメイングループがある場合、ドメイングループのすべての登録済みドメインは、共通のポリシーやその他の設定を共有できます。



---

(注) Cisco UCS Central を使用した初期登録プロセス中に、すべてのアクティブな ucsdm GUI セッションが終了します。

---

Cisco UCS Central でドメインを登録する前に、次の手順を実行します

- Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central を確実に同期させるために、双方で NTP サーバおよび正しいタイムゾーンを設定します。Cisco UCS ドメインと Cisco UCS Central の日時が同期していない場合、登録は失敗する可能性があります。
- Cisco UCS Central のホスト名または IP アドレスを取得します。スタンドアロンモードの場合、各 VM の IP アドレスを使用します。クラスタモードでセットアップする場合は仮想 IP アドレスを使用します。
- Cisco UCS Central を導入したときに設定した共有秘密を取得します。



- 
- (注)
- Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録すると、Cisco UCS Manager で使用される IP を変更または交換できません。IP アドレスを変更または交換する必要がある場合は、Cisco UCS Central からドメインの登録を解除して、IP アドレスを変更し、Cisco UCS Central に再登録してください。
  - Cisco UCS Manager の GUI または CLI を使用して、Cisco UCS ドメインを登録または登録解除できます。
  - 登録された Cisco UCS ドメインで Cisco UCS Central からのラウンドトリップが 300 ミリ秒以上遅延する場合、Cisco UCS ドメインのパフォーマンスに影響する可能性があります。
- 



警告

---

Cisco UCS Central で登録する前に、Cisco UCS Manager をリリース 2.1(2) にアップグレードする必要があります。Cisco UCS Manager リリース 2.1(1) を Cisco UCS Central リリース 1.1 に登録しようとすると、Cisco UCS Manager は登録が成功したことを表示します。しかし、Cisco UCS Central インベントリでは登録された Cisco UCS ドメインが表示されません。Cisco UCS Central の障害が、登録の失敗に関する重大なエラーを表示します。

---



# Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録

## 手順

- 
- ステップ 1 Cisco UCS Manager の [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブで、[All] > [Communication Management] を展開します。
- ステップ 3 [UCS Central] ノードをクリックします。
- ステップ 4 [Actions] 領域で、[Register With UCS Central] をクリックします。
- ステップ 5 [Register with UCS Central] ダイアログボックスで、次を実行します。
- [Hostname/IP Address] フィールドに、ホスト名または IP アドレスを入力します。
  - [Shared Secret] フィールドに、共有秘密またはパスワードを入力します。
- ステップ 6 [Policy Resolution Control] 領域で、Cisco UCS Central からポリシーまたは設定を管理する場合は [Global] をクリックし、Cisco UCS Manager からポリシーまたは設定を管理する場合は [Local] をクリックします。
- ステップ 7 [OK] をクリックします。
- 

# Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                               | 目的                                                                                                                                      |
|--------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | UCS-A# <b>scope system</b>                                 | システム モードを開始します。                                                                                                                         |
| ステップ 2 | UCS-A/system # <b>create control-ep policy ucs-central</b> | Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために必要なポリシーを作成します。<br><br><i>ucs-central</i> は Cisco UCS Central が展開されている仮想マシンのホスト名または IP アドレスです。 |

|        | コマンドまたはアクション                                         | 目的                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |                                                      | (注) IPアドレスではなくホスト名を使用する場合、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない場合や、DNS 管理がローカルに設定されている場合、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されている場合や、DNS 管理がグローバルに設定されている場合、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。 |
| ステップ 3 | Shared Secret for Registration: <i>shared-secret</i> | Cisco UCS Central を導入したときに設定された共有秘密 (またはパスワード) を入力します。                                                                                                                                                                                                       |
| ステップ 4 | UCS-A/system/control-ep# <b>commit-buffer</b>        | トランザクションをシステムの設定にコミットします。                                                                                                                                                                                                                                    |

次に、Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に IP アドレス 209.165.200.233 で登録し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # create control-ep policy 209.165.200.233
Shared Secret for Registration: S3cretW0rd!
UCS-A /system/control-ep* # commit-buffer
UCS-A /system/control-ep #
```

## Cisco UCS Manager GUI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除

Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインを登録を解除すると、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインのポリシーおよびその他の設定を管理できなくなります。

### 手順

- 
- ステップ 1 Cisco UCS Manager の [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
  - ステップ 2 [Admin] タブで、[All] > [Communication Management] を展開します。
  - ステップ 3 [UCS Central] ノードをクリックします。
  - ステップ 4 [Actions] 領域で、[Unregister With UCS Central] をクリックします。
  - ステップ 5 Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
  - ステップ 6 [OK] をクリックします。
-

# Cisco UCS Manager CLI を使用して Cisco UCS ドメインを登録解除

Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインを登録を解除すると、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインのポリシーおよびその他の設定を管理できなくなります。

## 手順

|        | コマンドまたはアクション                                   | 目的                                                    |
|--------|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| ステップ 1 | UCS-A# <b>scope system</b>                     | システム モードを開始します。                                       |
| ステップ 2 | UCS-A/system # <b>delete control-ep policy</b> | ポリシーを削除し、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインを登録解除します。 |
| ステップ 3 | UCS-A/system # <b>commit-buffer</b>            | トランザクションをシステムの設定にコミットします。                             |

次に、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインの登録を解除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # delete control-ep policy
UCS-A /system* # commit-buffer
UCS-A /system #
```

